

(1) 教育活動の目標と方策

【 探究活動の推進 】

(目標) 「立国LEADERプログラム」を実践し、探究のプロセス(課題の設定、情報の収集、整理・分析、解決策の検討、まとめ表現)を体験的に学べる機会を設定する。

今年度の取組目標とその方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>①進路探究部の探究セクションと副担任の探究担当が中心となって、本校の探究学習「立国LEADERプログラム」を推進する。</p> <p>②全ての教員で探究学習の論文指導を行うとともに、探究学習の成果発表の実施と、専門家による探究学習の価値付けを実現する。</p> <p>③1・2年で探究教養〈BUILD期〉、3年で探究専攻準備(探究計画作成、提出)〈CHALLENGE期①〉、4・5年で探究専攻〈CHALLENGE期②・CREATE期①〉、6年で自己探究(自己の在り方・生き方を考える、探究専攻の成果を進路に活用する)〈CREATE期②〉として、6年間の系統的な探究学習を行う。</p> <p>④探究学習の課題として、「社会課題探究」(ソーシャルチェンジ、困っている人を笑顔にする)、「理数探究」(大学研究室との連携で興味・関心のある分野の徹底追及)、「地域提案型探究」(アントレプレナーシップに基づく地元企業への企画提案、地元企業との商品開発)の教科横断的な3分野を設定する。</p>	<p>①毎週水曜日の打合せを実施することで、進行管理を確実にいき、探究活動を推進した。</p> <p>②3学期、大学院生による論文添削を実施して、論文の質の向上を図ることができた。生徒の研究分野に応じた大学院生の確保が課題である。</p> <p>③1・2年の探究教養は、校外学習や職場体験などの行事と関連させることで、探究活動を活性化することができた。4・5年の探究専攻は、個人研究の形式に変更することで、生徒個々の探究を深めることができた。3年の探究専攻準備の方法については、要検討である。</p> <p>④校外での探究活動の発表に積極的に参加して、成果を上げることができた。地域提案型は、地元企業と多くつながることができ、大きな成果を上げた。</p>

【 理数教育の充実 】

(目標) 理数教育研究校として、理数に興味・関心をもつ生徒に対して、特色ある取組を実施して、優れた資質・能力をもつ生徒の発掘とその才能を伸ばす。

今年度の取組目標とその方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>①「立国LEADERプログラム」における「理数探究」を推進する。</p> <p>②理科の授業における実験の一層の推進と実験内容の深化を図る。</p> <p>③大学との連携、民間企業との連携、都の施策を最大限活用し、「科学研究部」「自然探究部」及び「サイエンスラボ」の充実を図る。</p>	<p>①「理数研究校」として発表する機会を設定することができて、生徒の探究を深めることができた。</p> <p>②再現実験に留めず、探究の要素を取り入れた実験を実施した。実験の安全に配慮しつつ、系統的な実験計画を整備する。</p> <p>③科学研究部として、校外の発表会に参加して、生徒は、多くの刺激を受けて、自分の探究を深めた。自然探究部は、紫翠祭における演習実験に取り組み、充実した活動を行った。東京科学大学等と連携して、理数教育の充実を図ることができた。</p>

【 国際教育の特色化 】

(目標) Tokyo Metropolitan Global Education Network School Premier 20 (GE-NET20) の指定校として、「送り出し」、「受け入れ」、「共有」プログラムをより一層充実させ、グローバル人材の育成、国際社会のリーダーとなる素地を養う。

今年度の取組目標とその方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>①教科活動及び学校行事などの全ての教育活動において、グローバル人材を育成する。</p> <p>②TOKYO GLOBAL GATEWAY GREEN SPRINGS (1年)、英語合宿 (2年)、英語劇 (3年文化祭)、イングリッシュ</p>	<p>①グローバル人材の育成のために、海外からの視察訪問などは、積極的に受け入れることに努めた。次年度も、GE-NET20として、都の施策を最大限に活用して、学校行事の充実を図る。</p> <p>②様々な学校行事を通じて、コミュニケーションツールとしての英語力を、全ての学年で高めることがで</p>

<p>ユ・サマーセミナーを通して、コミュニケーションツールとしての英語力を高める。</p> <p>③「送出し」 オーストラリア・スタディツアー（5年）、シンガポールグローバルリーダー研修（希望者）、カンボジア・ボランティア巡検（希望者）、米国サイエンス・アカデミー（希望者）、次世代リーダー育成道場（3年生以上希望者）の内容と取組、指導の充実を図る。</p> <p>④「受入れ」 東京体験スクールの応募や、海外姉妹校などからの短期留学生の積極的に受入れる。</p> <p>⑤「共有」 海外帰国・在京外国人生徒枠で入学した生徒に活躍の場を提供するとともに、「国際交流セミナー」、「グローバル・アカデミー」（PTAとの共催によるグローバルリーダーの講演）、留学生との交流等を充実する。</p>	<p>きた。イングリッシュ・セミナーは115名が参加した。次年度、更なる内容の充実を図る。</p> <p>③今年度のオーストラリア・スタディツアーは、帰国便が欠航となり1日延泊となった。この経験から、生徒引率の海外研修時の危機管理マニュアルを策定した。希望制の海外研修は、新たに、カンボジア・ボランティア巡検を実施できたが、アメリカは応募者数が少なく、実施できなかった。アメリカ行きは再考中。</p> <p>④ミャンマー、中国青島からの学校訪問を受け入れた。また、ドイツからの留学生1名を4か月間受け入れたことは、大きな収穫であった。</p> <p>⑤海外大学進学講座（基礎・体験）の実施や、国際交流セミナーを実施した。グローバル・アカデミーは、国際部主催となった。来年度も充実した内容となるように企画する。</p>
--	--

【 「AIを活用した英語教育の充実事業」実施校の実践 】

（目標）AI技術を活用したアプリケーションを、生徒が取り組む英作文や小論文等の添削などの英語「書くこと」の指導に活用し、その成果を検証・報告する。

今年度の取組目標との方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>①AI技術を活用したアプリケーションを、英語の授業で実施するプレゼンテーションの原稿、大学入試対策としての英作文、また、探究学習における研究論文の推敲に活用することで、個別の最適な学習に資する。</p> <p>②AI技術の活用推進、AIリテラシーや効果的な活用方法、留意点等の具体的な方策について、教員研修を実施して理解を深める。</p>	<p>①AIを活用することで、英作文の語彙力の増加したことや、添削における即時性のおかげで多くの演習に取り組むことが可能となった。また、教員の負担軽減にもつながっていた。</p> <p>②生成AIの活用に当たり、語彙力や表現力の向上に役立つが、安易に頼ってしまうと必ずしも生徒の力を伸ばすことにならない。次年度は、授業における効果的な使い方を考えることが必要である。</p>

【 学校行事（三祭）の充実 】

（目標）本的な生活習慣を確立するとともに、生徒が規範意識と道徳心を育み、リーダーとしての素養を育成できるように活動を工夫する。また、生徒の努力や成果を評価し自己肯定感の向上を図る。

今年度の取組目標との方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>①「立国LEADERプログラム」と関連付けて、三祭のそれぞれの内容の充実を図る。</p> <p>②三祭を通じて「チーム立国」の一員としての成就感と一体感を醸成する。</p>	<p>①紫翠祭の1・2学年の探究活動の発表は、プログラムとの関連性が高め、探究の質の向上が図った。</p> <p>②三祭をとおして、生徒が主体的に運営を行い異学年との交流を深めることができた。それぞれの実行委員のリーダーとしての自覚と行動は特筆すべきものであった。来年度も、更なる生徒の主体性を導くよう、三祭の運営の改善を更に図る。</p>

【 進路指導の充実 】

（目標）進路探究部を中心に、データを活用した個別最適な学びの進路指導と立国イズム（塾に任せない、最後まで諦めない、高みを目指す、チームで実現する）の指導により、学年・教科が有機的に機能する組織体制を構築し、進路指導の充実を図る。

今年度の取組目標との方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>①学力向上のために、自習室の活用やチューターによる指導、SSC (Self-Study Club) など、自学自習の習慣確立を図る指導を実践する。</p> <p>②進路選択の複線化（国内大学、海外大学）や、大学入試受験方法の多様化（一般受験、総合型選抜、学校推薦型選抜）、大学入学共通テスト、情報I対策などに対して、柔軟に対応する。</p> <p>③模試分析（大学入学共通テスト分析を含む）、ケース</p>	<p>①自習室の活用など、自学自習の支援を果たすことができたが、生徒の参加がやや固定化していた。学年全体で学力向上に励むように、改善したい。</p> <p>②入試受験方法の多様化への対応は、昨年度よりも改善されたが、情報I対策は不十分だった。</p> <p>③模試分析、学力推移調査分析など、データに基づく</p>

<p>スタディの悉皆研修を継続し、教科会、教科主任会と連動させて、実際の授業における指導に繋げる。</p> <p>④ 2年生で実施する「職業体験」(インターンシップ)を「立国LEADERプログラム」と接続して実施し、アントレプレナーシップ入門、課題研究(探究学習に繋がる発展的調べ学習の実施)につなげる。</p> <p>⑤ 進路指導の共通様式による自己分析と、スタディサプリを活用した焦点化による個別最適な学びに取り組む。</p> <p>⑥ 保護者会や三者面談等において、データを活用した根拠に基づく内容となるように工夫を行い、保護者から信頼される進路指導に取り組む。</p>	<p>指導へと変わりつつある。今年度は、生徒自らが模試分析を行い、学年の友達に対して声掛けを行う企画が生まれ、学校として、模試分析のノウハウは蓄積されてきた、この機運を更に高めたい。</p> <p>④ 立川の商業施設や小売店などの様々な企業からの課題を解決する探究活動は、2年目を迎え、充実した探究活動となった。昨年度の探究をそのまま今年度も継続して、生徒の案がポールフラッグに選定された。</p> <p>⑤ スタディサプリを活用した個別最適な学びを推進したおかげで、学年によっては、学力向上につなげることができた。今後も、積極的な活用を促し、取り組む。</p> <p>⑥ 模試データを活用して二者面談や三者面談を行い、数値に基づく、具体的な指導・助言をすることができた。</p>
--	--

【「よりよい6年間」「攻める12年間」の教育課程編成の検討】

(目標) 指導と評価の一体化の推進、生徒の成績や学習成果等のデータの確実な点検体制を確立する。

今年度の取組目標とその方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>① 中等教育学校の6年間を見通した「立国LEADERプログラム」における意図的・計画的な教育課程を充実させるとともに、3年後の令和10年に附属小学校からの進学してくる生徒と、中等教育学校から入学してくる生徒との混在後の6年間を含めた12年間「立国LEADERプログラム」を構築する。</p> <p>② 生徒の成績や学習成果等のデータ、指導要録、調査書など、様々な文書の発行に当たり、複数人による複数回の点検を順守する。</p>	<p>① 中等教育学校の「立国LEADERプログラム」は、今年度改訂することができた。令和8年度、12年間を見通した探究プログラムを完成させる。</p> <p>② 複数人で複数回の点検を順守することで、ヒヤリハットの事例を、回避することができた。電子化されたデータも、点検を確実に進行。</p>

【中等教育学校の広報活動の強化】

(目標) 積極的に保護者・地域・社会に情報発信を行うとともに、募集対策に組織的に取り組む。

今年度の取組目標とその方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>① 「立国EXPO2025」(小学校3～5年生への説明会、小学校6年生へのきめ細かい個別相談)を新たに実施して、広報活動を拡充する。</p> <p>② 学校説明会において、生徒が説明役などで登壇することで、保護者や小学生に対する効果的な広報を展開する。また、外部の説明会にも積極的に参加し、広報活動を強化する。</p> <p>③ 学校の情報発信の場であるウェブサイトを随時更新し、知りたい情報をすぐに見付けられるように工夫する。また、都立学校保護者コミュニケーションシステム「Classi 東京都版」を活用し、保護者には、適宜、学校の様子を伝えるとともに、意見聴取の場面を設定することで、開かれた学校となるよう推進する。</p>	<p>① 説明会の後半から、生徒参加、児童体験講座などを取り入れることで、ニーズに応じた説明会を実施でき、参加者数は増加した。</p> <p>② 在校生座談会や、生徒が立国の特色を英語で説明するなど、効果的な広報活動を実現できた。外部の説明会にも参加した。次年度は、小学生中学年をターゲットとした説明会を実現する。</p> <p>③ 学校行事の様子や、前期課程の給食の献立と写真を随時更新することで、情報発信を実現できた。保護者向けのアンケート機能を用いて、常時、意見聴取できるようにした。来年度は、より丁寧な保護者向けの説明・情報発信となるようにする。</p>

【生徒の体力向上及び健康の保持増進】

(目標) 生徒が安全安心な学校生活を送り、生涯にわたり心身ともに健康的な生活を営めるよう、生徒の健康保持増進や体力づくりの推進に努める。

今年度の取組目標とその方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>① 体力を向上させ、心の安定を図り、社会の発展に貢献し得る心身共に健康な人間を育成する。</p>	<p>① 地域クラブや部活動指導員の制度を活用することで、安定した部活動の運営となり、体力の向上に取り組むことができた。活動指導の体制を、来年度も継続する。</p>

<p>②生徒自らが健康を意識し、自己の健康管理に努めることを通して、進んで健康づくりを实践できる能力を育てる。</p> <p>③スクールカウンセラー、特別支援コーディネーター等と関係部署の連携を深め、教育相談体制の充実を図り、日頃の生活状況やいじめアンケート等に基づく個々の生徒の状況把握に努め、一人一人に応じたきめ細かい指導を実施する。</p> <p>④「都立高校等における産婦人科医を活用したユースヘルスケア事業」など、生徒の発達段階を踏まえ、様々な教科等を横断的・効果的に関連させた取組等を推進し、生徒が自ら健康的な生活を送ることができるようにする。</p> <p>⑤組織的な教育相談体制の確立及び個々の教職員のカウンセリングスキルの向上を図り、生徒の悩みに起因する事故の未然防止に取り組む。</p> <p>⑥教員の負担の軽減を図るとともに、部活動の指導を充実していくため、地域の幅広い協力を得て、部活動指導員や外部指導者などの外部の指導者を含めた指導体制を構築する。</p>	<p>②保健の授業や食育の授業をとおして、健康について意識するきっかけとなった。</p> <p>③4名のスクールカウンセラーと連絡体制を密にとることで、早期の症状から対応することができた。また、いじめアンケートに気になるものがあれば、組織的に対応することを共有した。</p> <p>④健康相談員による後期生徒・保護者向け（7月）、3・5学年対象（10月）の講演会を実施し、参加した生徒や保護者から好評であった。来年度も、健康相談事業を実現して、生徒の自己理解・他者理解などに貢献する。</p> <p>⑤居心地向上プロジェクトの教員向け研修を実施して、教員の対応力の向上を図った。また、生徒の相談窓口については、生徒の状況を踏まえて周知することができた。</p> <p>⑥地域移行・連携、部活動指導員のおかげで、教員の負担軽減することができて、教員は教材研究や授業準備、生徒・保護者対応に注力できる環境を構築することができた。</p>
---	--

【附属小学校と中等教育学校の協働】

（目標）附属小学校との連携行事を効果的・効率的に推進する。

今年度の取組目標とその方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>①中等生による読み聞かせ等、附属小学校の児童と中等教育学校の生徒との交流活動の充実を図る。</p> <p>②中等教育学校生徒会によるレクリエーションの継続と充実、また、附属小学校の児童を対象とした部活動の公演などを実施する。</p> <p>③附属小学校校舎の利活用に関して規定等を策定し、附属小学校の教育活動を優先に、中等教育学校生徒の教育、学校行事、部活動等での利用を促進する。</p>	<p>①国際交流・広報委員による読み聞かせを延べ6日間実施したり、文化祭と英語発表会に児童が参加したりするなど、交流活動を実現した。</p> <p>②中等生徒会が小学生の児童と、昼休みに、一緒に遊んだりする機会を実現、また、合同の百人一首大会や、中等合唱部が小学校のクリスマス会で公演した。次年度も、交流の機会を設ける。</p> <p>③outlookの機能を活用して、施設利用仕組みを構築することができ、利便性が向上した。</p>

(2) 学校経営の目標と方策

今年度の取組目標とその方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>①全教職員が、中等教育学校及び附属小学校の一体的な運営に対する意識を高め共有することで、校内組織体制の強化と改革を推進する。</p> <p>②企画調整会議、教科主任会議、P D C A会議の機能の充実と委員会の活用による共通理解を図る。</p> <p>③広報活動、S S C (Self-Study Club) について、全ての教員による全校体制で取り組む。</p> <p>④若手教員の教科指導力などの向上のため、組織的な支援体制を構築する。</p> <p>⑤読書活動の充実を図り、生徒の思考力・判断力・表現力の基礎を育成する。</p> <p>⑥自転車乗車用ヘルメット着用の徹底を図り、生徒の安全の向上を図る。</p> <p>⑦S O Sの出し方に関する教育の推進、学校の居心地向上検証プロジェクト、自殺対策に資する教育を行う。</p> <p>⑧「立川国際中等教育学校いじめ防止基本方針」に則り、学校いじめ対策委員会を中心に、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に組織的に取り組み、い</p>	<p>①一体的な運営における全教職員への周知方法について見直すことで、意識を効果的に向上させることができた。</p> <p>②それぞれの会議の報告を共有することはできたが、委員会の活用は不十分であった。</p> <p>③広報活動、S S Cの運営は、一部の教員に偏ってしまったので、次年度は改善を図る。</p> <p>④新規採用教員や2年次、3年次の教員のフォローについて、教科の枠を超えて当たることができた。</p> <p>⑤ラーニング・コモンズの利用率を上げて、更なる読書活動の充実を図る。</p> <p>⑥自転車乗車用ヘルメットの着用は、届出と実態が伴っていないので、指導の見直しを図る。</p> <p>⑦学校の居心地向上検証プロジェクトは、生徒の自己肯定感の向上に寄与しているので、次年度も継続する。</p> <p>⑧全教員が、日頃の生徒の人間関係を丁寧に観察することで、生徒間のトラブルを拗れる前に早期対応することを組織的に取り組むことができた。</p>

<p>じめをしない、させない、見過ごさない態度を育成する。</p> <p>⑨校内研修や啓発活動を通して、教育公務員としての高い使命感と倫理観をもち、服務規律を順守することを徹底し、体罰や暴言のない指導、3ない運動プラス、服務事故根絶を達成する。</p> <p>⑩東京都子ども基本条例や人権教育に関する法令等及び人権課題についての正しい理解と認識を深め、立国ルールである生徒の呼称と、個人情報を取扱う際には複数人による複数回点検を徹底する。</p> <p>⑪ICT機器を活用した企画調整会議等のペーパーレス化、デジタル掲示板を活用した情報共有・連絡体制の構築、また、教科指導以外の業務の精選と効率化、さらに、週に一回以上の定時退庁の実施など、教職員のライフ・ワーク・バランスを推進する。</p> <p>⑫施設・設備等を計画的に整備し、良好な教育環境のための予算編成を組むことで、充実した教育活動を実現し、働きやすい職場環境を創出する。</p> <p>⑬経営企画室の学校経営参画を促進し、業務管理表等を活用して、業務の進捗状況を適切に管理するとともに、生徒の安全確保のための施設設備の保守点検及び改善を随時実施する。</p>	<p>⑨教員に対する服務事故未然防止に、デジタル掲示板やポスター掲示など、毎日、注意喚起は図っている。次年度、服務事故根絶を徹底する。</p> <p>⑩授業における呼称や、学級通信、教室掲示など、人権に配慮したものであるか、校内巡視や授業見学の際に確認している。また、個人情報の取扱いについても、点検方法を順守している。</p> <p>⑪デジタル機器を活用することで効率的に業務に当たることができ、そのことから、ライフ・ワーク・バランスを向上できている。</p> <p>⑫施設・設備において、不要な物品を今年度も、精力的に進めた。来年度も什器の更新を行う。</p> <p>⑬経営企画室には、適宜、声掛けを行い、学校経営計画の具現化を予算面で達成するように推進している。経営企画室の安定的な運営を心掛ける。</p>
--	--

(3) 数値目標

数値目標	今年度結果
<p>①学校運営・組織</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★学校評価：生徒・保護者の満足度：85%</li> <li>○服務事故の発生件数：0件</li> </ul> <p>②学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自宅学習時間</li> <li>1・2年生：90分 3年生：150分</li> <li>4・5年生：180分 6年生：240分</li> <li>○教員相互の授業観察：各学期に1回以上</li> </ul> <p>③生徒の挑戦促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★コンテスト等への参加実績：5件</li> </ul> <p>④進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○進路だより発行：7回以上</li> <li>○長期休業日中の講習</li> <li>夏期講習：120講座 受講者延べ2000人 参加率85%</li> <li>冬期講習：40講座 受講者延べ600人 参加率85%</li> <li>春期講習：40講座 受講者延べ200人 参加率85%</li> <li>○大学入学共通テスト受験率：100%</li> <li>○大学入学共通テスト6教科8科目型受験：100人</li> <li>★現役合格</li> <li>難関国立大学(東大、京大、一橋大、東科大、医)：10人</li> <li>国公立大学：50人</li> <li>難関私立大(早大、慶大、上智大、理科大)：70人</li> </ul> <p>⑤生活指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校行事への生徒・保護者の満足度：85%以上</li> <li>○附属小学校との連携による行事：5件</li> <li>○規範意識、道徳心・帰属意識を育成する取組：5件</li> </ul> <p>⑥安全教育・健康教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前期避難訓練：11回、後期避難訓練：4回</li> </ul> <p>⑦生徒募集・広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★説明会・授業公開参加者数：3000人</li> <li>○Webサイト更新：150回以上</li> <li>○広報誌Tach i koku Times 発行：10回</li> <li>○一般枠応募倍率：3.3倍</li> </ul>	<p>①学校運営・組織</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★学校評価「本校に入学してよかった」</li> <li>生徒92%、保護者92%</li> </ul> <p>②学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自宅学習時間</li> <li>1年生:89分 2年生:77分 3年生:98分</li> <li>4・5年生：104分 6年生：195分</li> <li>○教員相互の授業観察91%</li> </ul> <p>③生徒の挑戦促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★コンテストへの参加：8件</li> </ul> <p>④進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○進路だより発行：6回</li> <li>○長期休業中の講習</li> <li>夏期181講座2806人 参加率78.3%</li> <li>冬期58講座718人 参加率92.1%</li> <li>春期67講座738人 参加率93.4%</li> <li>○大学入学共通テスト受験率97.8%</li> <li>○大学入学共通テスト6-8型59人</li> <li>★現役合格</li> <li>難関国立大学：4人</li> <li>国公立大学：32人</li> <li>難関私立大学：64人</li> </ul> <p>⑤生活指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校行事の満足度</li> <li>生徒85%、保護者82%</li> <li>○附属小学校との連携：7件</li> <li>○規範意識醸成などの取組：4件</li> </ul> <p>⑥安全教育・健康教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○避難訓練 前期:11回 後期:4回</li> </ul> <p>⑦生徒募集・広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★説明会・授業公開参加者数:4361人</li> <li>○Webサイト更新：381回</li> <li>○広報誌発行：12回</li> <li>○一般枠応募倍率：3.21倍</li> </ul>

<p>⑧探究的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ラーニング・コモンズでの発表活動：5回</li> <li>○関係機関・大学等との連携事業数：5件</li> </ul> <p>⑨国際教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国際教育の生徒・保護者の満足度：85%</li> </ul> <p>○英検取得者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1級：8名、準1級：60名</li> <li>2級・準2級：100名</li> </ul> <p>⑩ライフ・ワーク・バランス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○夏季休暇取得率：100%</li> <li>○年次有給休暇取得：一人平均 年間 15日</li> <li>★超過勤務時間一月当たり 45時間以下の教員割合：7割</li> </ul> <p>⑪経営企画室との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○管理運営費と自律経営推進予算の執行率：90%、センター執行率：60%</li> </ul>	<p>⑧探究的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ラーニング・コモンズでの発表：15回</li> <li>○関係機関・大学等との連携：10件</li> </ul> <p>⑨国際教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国際教育の満足度 生徒 87%、保護者 81%</li> </ul> <p>○英検取得者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1級：9名、準1級：72名</li> <li>2級・準2級：232名</li> </ul> <p>⑩ライフ・ワーク・バランス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○夏季休暇取得率：100%</li> <li>○年休年間 15日取得：60%</li> <li>★超過勤務一月 45時間以下：75%</li> </ul> <p>⑪経営企画室との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自律：98.8%、センター執行率：51.8%</li> </ul>
---	---